

## 2022年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年1月11日

上場会社名 クオインタムソリューションズ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2338 URL <https://www.quantum-s.co.jp/>  
 代表者 (役職名)代表取締役 (氏名)邵 賛  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理部長 (氏名)村山 雅経 (TEL)03(6910)0571  
 四半期報告書提出予定日 2022年1月11日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年2月期第3四半期の連結業績(2021年3月1日~2021年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年2月期第3四半期	196	10.2	△277	-	△234	-	△203	-
2021年2月期第3四半期	178	△49.8	△300	-	△298	-	△311	-

(注) 包括利益 2022年2月期第3四半期 △234百万円 (-%) 2021年2月期第3四半期 △306百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年2月期第3四半期	△18.11	-
2021年2月期第3四半期	△28.96	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年2月期第3四半期	1,003	952	83.5
2021年2月期	1,011	673	56.8

(参考) 自己資本 2022年2月期第3四半期 837百万円 2021年2月期 573百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年2月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2021年2月期	-	0.00	-	-	-
2022年2月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2022年2月期の連結業績予想(2021年3月1日~2022年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	300	22.2	△330	-	△300	-	△270	-	△24.07	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 - 社(社名) - 、除外 - 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年2月期3Q	11,696,231株	2021年2月期	10,812,361株
2022年2月期3Q	38,527株	2021年2月期	38,476株
2022年2月期3Q	11,220,233株	2021年2月期3Q	10,773,926株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	11
3. その他	12
継続企業の前提に関する重要事象等	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新規感染者の減少等、新型コロナウイルスの影響も、若干落ち着いて参りましたが、世界的には、まだ猛威がやまず、依然として厳しい状況が続いており、今後も引き続きその状況が継続するものと見込まれ、自動車業界では政府の「脱炭素」方針やCASEに対応するための電気自動車(EV)等の研究開発がより顕著となって参りました。

このような状況のもと、当社グループは第2四半期連結会計期間において、電気自動車事業(EV)へ参入することを決定し、提携先である株式会社FOMMとともに香港で合弁会社(Quantum FOMM Limited)を設立したことに続き、当第3四半期連結会計期間では、EV事業を当社グループの新たな事業の核とすべく、EV事業の課題に対する考察と調査を行って参りました。

この結果、当第3四半期連結累計期間につきましては、売上高196百万円(前年同期比10.2%増)、営業損失277百万円(前年同期は営業損失300百万円)となりました。経常損失は234百万円(前年同期は経常損失298百万円)となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は203百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失311百万円)となりました。

セグメント別の売上高は、以下のとおりであります。(セグメントの業績については、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。)

#### (システムソリューション事業)

当事業におきましては、5G技術とAI技術を融合させた新たな事業としてEV事業へ参入するための準備活動を行っておりますが、事業の立ち上げには更なる時間が必要な状況にあります。その結果、当第3四半期連結会計期間においても、業績への貢献はまだ出ておりません。その結果、売上高は32百万円(前年同期比76.4%増)、売上構成比は16.4%となりました。セグメント損失(営業損失)は46百万円となり、前年同四半期と比べ24百万円(前年同期は22百万円の営業損失)の増益となりました。

#### (アイラッシュケア事業)

当事業におきましては、サロンに関しましては、新メニューの導入を前倒しで行い、全店の新規集客が昨年比226.3%(9月~11月の合計)と大きく増加しました。しかしながら、新メニューは、既存メニューに比べ施術金額が安価であり、効果持続時間が従来に比べて長いこと(来店間隔の延び)から、短期的には売上が減少しております。その結果、売上高は164百万円(前年同期比0.7%減)、売上構成比は83.6%となりました。セグメント損失(営業損失)は95百万円となり、前年同四半期と比べ11百万円(前年同期は83百万円の営業損失)の減益となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて64百万円減少し、813百万円となりました。これは、主に現金預金が33百万円、商品及び製品が19百万円及びその他流動資産が12百万円減少したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて56百万円増加し、189百万円となりました。これは、主に長期貸付金が50百万円増加したことなどによります。この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて7百万円減少し、1,003百万円となりました。

#### (負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて14百万円増加し、48百万円となりました。これは、主にその他流動資産が15百万円増加したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて300百万円減少し、2百万円となりました。これは、主に転換社債型新株予約権付社債が300百万円減少したことなどによります。この結果、負債は、前連結会計年度末に比べて286百万円減少し、51百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて279百万円増加し、952百万円となりました。これは、主に資本金並びに資本剰余金がそれぞれ248百万円及び新株予約権が15百万円増加し、利益剰余金が203百万円及び為替換算調整勘定が31百万円減少したことなどによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年10月11日に公表した業績予想から修正はございません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	792,815	759,656
受取手形及び売掛金	43,113	40,571
商品及び製品	40,794	21,413
前払費用	5,538	8,792
その他	29,434	16,821
貸倒引当金	△33,642	△33,636
流動資産合計	878,054	813,619
固定資産		
投資その他の資産		
差入保証金	25,477	24,244
投資有価証券	107,374	115,820
長期貸付金	-	50,000
破産更生債権等	152,729	152,729
その他	192	20
貸倒引当金	△152,729	△153,009
投資その他の資産合計	133,044	189,804
固定資産合計	133,044	189,804
資産合計	1,011,099	1,003,424
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,433	3,760
未払金	17,282	16,922
未払法人税等	5,477	2,303
預り金	3,378	2,813
その他	7,109	22,996
流動負債合計	34,681	48,795
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	300,000	-
その他	3,306	2,376
固定負債合計	303,306	2,376
負債合計	337,988	51,172

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,409,711	2,658,679
資本剰余金	1,992,526	2,241,494
利益剰余金	△3,782,570	△3,985,808
自己株式	△59,039	△59,086
株主資本合計	560,628	855,279
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	13,226	△17,783
その他の包括利益累計額合計	13,226	△17,783
新株予約権	99,256	114,672
非支配株主持分	-	83
純資産合計	673,111	952,251
負債純資産合計	1,011,099	1,003,424

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年3月1日 至2021年11月30日)
売上高	178,337	196,498
売上原価	51,479	62,032
売上総利益	126,858	134,465
販売費及び一般管理費	426,936	411,699
営業損失(△)	△300,078	△277,233
営業外収益		
受取利息	6	5
受取配当金	0	0
貸倒引当金戻入額	22	-
助成金収入	20,086	16,994
為替差益	-	26,091
仮想通貨差益	3,267	-
その他	105	163
営業外収益合計	23,488	43,255
営業外費用		
支払利息	163	118
為替差損	7,425	-
支払手数料	14,100	-
貸倒引当金繰入額	-	273
その他	9	98
営業外費用合計	21,698	490
経常損失(△)	△298,288	△234,468
特別利益		
新株予約権戻入益	-	32,973
特別利益合計	-	32,973
特別損失		
事業譲渡損	12,021	-
特別損失合計	12,021	-
税金等調整前四半期純損失(△)	△310,309	△201,494
法人税、住民税及び事業税	1,663	1,749
法人税等合計	1,663	1,749
四半期純損失(△)	△311,973	△203,244
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	-	△6
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△311,973	△203,237



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)
四半期純損失(△)	△311,973	△203,244
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	5,641	△31,010
その他の包括利益合計	5,641	△31,010
四半期包括利益	△306,332	△234,254
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△306,332	△234,250
非支配株主に係る四半期包括利益	-	△4

### (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

#### (継続企業の前提に関する注記)

当社には、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、これは、当社グループは、前連結会計年度において売上高が減少し、営業損失が発生したことに加え、営業活動によるキャッシュ・フローがマイナスとなっており、また、当第3四半期連結累計期間におきましては、売上高は増加したものの、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上しているためです。

当社グループは、当該状況を早急に解消するため、以下の施策を実施してまいります。

システムソリューション事業では、5G技術とAI技術を融合させた関連事業の一環として2021年8月、株式会社FOMMとの資本・業務提携を通じて電気自動車（EV）事業に参入することを決めて以来、中国におけるEVの製造及び中国と日本での販売戦略を構築すべく、提携に際しての様々な課題解決に注力し、EVの製造・販売の早期実現を目指して参ります。

アイラッシュケア事業では、商材の販売については、SDGsに対応したパッケージ開発に注力すると共に、プロガー等へのタイアップ企画（広告）を行い、化粧品のDtoCの販売に力を入れて参ります。サロンにおきましては、親和性の高い異業種との業務提携等を進め、集客を図る施策を行って参ります。

これら今後必要となる事業資金の確保については、資金調達で得た資金や手元資金の他、必要に応じた新たな資金調達を検討することで対応してまいります。

しかし、これらの対応策の実現可能性は、市場の状況、需要動向、他社との競合等の影響による成果を負っており、事業計画の達成如何にも左右されるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、上記のような重要な不確実性の影響を反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年3月1日至2020年11月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2021年3月1日至2021年11月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動に関する事項

当第3四半期連結累計期間において、2021年3月1日付でZhou DiSun、同年4月12日付で張玉珊(Cheung Yuk Shan Shirley)よりそれぞれ第3回無担保転換社債型新株予約権付社債の権利行使を受け、新株を発行したことにより、資本金及び資本準備金がそれぞれ150,000千円増加いたしました。

また、同年11月19日付で、Kingdom Capital Resources Ltdより、第8回新株予約権の権利行使を受け、新株を発行したことにより、資本金及び資本準備金が、それぞれ98,968千円増加いたしました。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が2,658,679千円、資本剰余金が2,241,494千円となっております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年3月1日至2020年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	システムソ リューション 事業	アイラッシ ュケア事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	11,801	165,502	177,304	1,033	178,337	-	178,337
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	6,448	-	6,448	-	6,448	△6,448	-
計	18,250	165,502	183,752	1,033	184,786	△6,448	178,337
セグメント損失 (△)	△22,488	△83,327	△105,816	△67,250	△173,066	△127,011	△300,078

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。  
2. セグメント損失の調整額△127,011千円は、セグメント間取引消去△6,448千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△120,563千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
3. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## II 当第3四半期連結累計期間（自 2021年3月1日 至 2021年11月30日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	システムソ リューション 事業	アイラッシ ュケア事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	32,200	164,298	196,498	-	196,498	-	196,498
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	32,200	164,298	196,498	-	196,498	-	196,498
セグメント損失 (△)	△46,776	△95,216	△141,992	△5,274	△147,267	△129,966	△277,233

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。  
 2. セグメント損失の調整額129,966千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
 3. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において売上高が減少し、営業損失が発生したことに加え、営業活動によるキャッシュ・フローがマイナスとなりました。当第3四半期連結累計期間におきましては、売上高は増加したものの、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上しております。これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を早急に解消するため、以下の施策を実施して参ります。

システムソリューション事業では、5G技術とAI技術を融合させた関連事業の一環として2021年8月、株式会社FOMMとの資本・業務提携を通じて電気自動車（EV）事業に参入することを決めて以来、中国におけるEVの製造及び中国と日本での販売戦略を構築すべく、提携に際しての様々な課題解決に注力し、EVの製造・販売の早期実現を目指して参ります。

アイラッシュケア事業では、商材の販売については、SDGsに対応したパッケージ開発に注力すると共に、ブロガー等へのタイアップ企画（広告）を行い、化粧品のDtoCの販売に力を入れて参ります。サロンにおきましては、親和性の高い異業種との業務提携等を進め、集客を図る施策を行って参ります。

これら今後必要となる事業資金の確保については、資金調達で得た資金や手元資金の他、必要に応じた新たな資金調達を検討することで対応してまいります。

しかし、これらの対応策の実現可能性は、市場の状況、需要動向、他社との競合等の影響による成果を負っており、新株予約権者や投資家の御意向や事業計画の達成如何にも左右されるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、上記のような重要な不確実性の影響を反映しておりません。

また、当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスク及び前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。